

災害廃棄物安全評価検討会（第3回）

日時：平成23年6月19日（日）14:00～

場所：環境省第1会議室

議 題

(1) 福島県内の災害廃棄物の処分方法等について

(2) その他

- 資料1 災害廃棄物安全評価検討会 出席者名簿
 - 資料2 第2回検討会議事要旨
 - 資料3 災害廃棄物の放射能濃度の推定方法について
 - 資料4 福島県の浜通り及び中通り地方（避難区域及び計画的避難区域を除く）の災害廃棄物の処理・処分における放射性物質による影響の評価について
 - 資料5-1 放射性物質により汚染されたおそれのある災害廃棄物の処理の方針（案）
 - 資料5-2 東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故の影響を受けた廃棄物の処理処分等に関する安全確保の当面の考え方について
 - 資料5-3 災害廃棄物の処理・処分における放射性物質による影響の評価シナリオと主なパラメータ（概念図）
 - 資料6-1 福島県内の焼却施設の設備状況について
 - 資料6-2 焼却炉周辺及び煙道排ガス調査結果
 - 資料6-3 一般廃棄物焼却施設の排ガス処理装置におけるセシウム、ストロンチウムの除去挙動
 - 資料7 福島県内の放射性物質により汚染されたおそれのある廃棄物の処理にかかる調査について
- 参考資料1 「放射性物質が検出された上下水処理等副次産物の当面の取扱いに関する考え方」について

災害廃棄物安全評価検討会 出席者名簿

(委員名簿)

○: 座長

井口 哲夫 名古屋大学大学院工学研究科教授

○大垣 眞一郎 独立行政法人国立環境研究所理事長

大迫 政浩 独立行政法人国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター長

酒井 伸一 京都大学環境科学センター長

杉浦 紳之 近畿大学原子力研究所教授

新美 育文 明治大学法学部専任教授

森澤 眞輔 京都大学名誉教授

(敬称略、五十音順)

(オブザーバー)

中津 健之 経済産業省原子力安全・保安院放射性廃棄物規制課長

島根 義幸 経済産業省原子力安全・保安院放射性廃棄物規制課
総合廃止措置対策室長

小牛田 政光 福島県生活環境部次長

川上 博人 独立行政法人原子力安全基盤機構廃棄物燃料輸送
安全部技術参与木村 英雄 独立行政法人日本原子力研究開発機構安全研究センター
廃棄物安全研究グループ研究主幹

池内 嘉宏 財団法人日本分析センター理事

藤吉 秀昭 財団法人日本環境衛生センター常務理事

佐藤 幸世 財団法人日本環境衛生センター次長

災害廃棄物安全評価検討会（第2回） 議事要旨案

日時：平成23年6月5日（日）14:00～16:50

場所：環境省第1会議室

出席委員：大垣座長、井口委員、大迫委員、大塚委員、酒井委員、杉浦委員、新美委員、森澤委員

オブザーバー：経済産業省 原子力安全・保安院 放射性廃棄物規制課 中津課長
 経済産業省 原子力安全・保安院 総合廃止措置対策室 島根室長
 福島県 生活環境部 小牛田次長
 独立行政法人原子力安全基盤機構
 廃棄物燃料輸送安全部廃棄・廃止措置グループ 川崎グループ長
 独立行政法人原子力安全基盤機構 川上技術参与
 独立行政法人日本原子力研究開発機構
 安全研究センター廃棄物安全研究グループ 木村研究主幹
 財団法人日本分析センター 池内理事
 財団法人日本環境衛生センター 羽染理事

環境省：南川事務次官、谷津官房長

水・大気環境局 鷺坂局長、関水環境担当審議官

廃棄物・リサイクル対策部 伊藤部長

廃棄物・リサイクル対策部企画課 坂川企画課長

廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課 廣木課長、山縣課長補佐

廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課適正処理・不法投棄対策室 吉田室長

※会議は非公開で行われ、終了時の次官挨拶は公開された。

議 題

(1) 災害廃棄物の処理を再開する福島県の市町村について

ア. 環境省から、5月27日に公表した災害廃棄物の処理を再開する福島県の市町村について、説明があった。

イ. 福島県から、災害廃棄物を始め、下水道汚泥や、校庭の土壌など、放射性物質に汚染されたおそれのあるものの取扱について地域の関心が高く、住民も敏感になっており、処理の検討を速やかに進めてほしいという要望があった。

(2) 福島県内の仮置き場における災害廃棄物の放射性物質濃度の測定結果について

ア. 独立行政法人原子力安全基盤機構から、災害廃棄物の放射能汚染状況の調査概要及びその測定結果に対する考察について説明があった。

イ. 委員からそれぞれの仮置き場に搬入されたものがどの地域から搬入されたか確認することが必要であるとの指摘があった。

ウ. 委員から測定結果のばらつきの要因を検討することが必要との指摘があった。

(3) 福島県内の災害廃棄物の処分方法等について

ア. 大迫委員から、廃棄物焼却炉でのセシウムの挙動やセシウムの溶出特性について説明があり、焼却飛灰や溶融飛灰は水に溶出しやすいとの知見が報告された。

- イ. 原子力安全・保安院から、飛散した放射性物質の影響評価に使用する主なシナリオ及びパラメータについて説明があった。
- ウ. 委員から、いくつかのパラメータ設定について安全サイドで設定すべきとの指摘があった。また、リスクが低いシナリオについてもその旨を住民に説明することでリスクコミュニケーションを図ることが必要という指摘があった。
- エ. 環境省から、処理方法に関する検討課題について説明があった。
- オ. 委員から、焼却や一時保管を考えると同時に、最終的な処分についても考えておく必要があり、検討を早急に行わなければならないとの意見があった。
- カ. 委員から、リサイクルは原子力安全委員会の方針に基づいて実施した上で、 $10\mu\text{Sv/}$ 年を超える廃棄物について、一定の管理を行いつつ利用する方法の可能性について、検討することが必要との指摘があった。
- キ. 委員から、焼却施設の排ガス処理施設について、湿式スクラバーや活性炭吸着による除去、また、排水が発生する場合の排水処理での対応について検討する必要があるとの意見があった。
- ク. 委員から、災害廃棄物の埋立てを行った最終処分場の管理については、長期的な管理の体制も含めて検討する必要があるとの指摘があった。また、跡地利用について、例えば公園利用は子供も利用するため、注意して検討する必要があるとの指摘があった。
- ケ. 電離放射線障害防止規則は作業者の安全確保を目的としているが、飛散しやすい飛灰のようなものの取扱いも含めて想定しているのか確認が必要との指摘があった。
- コ. 委員から、クリアランスレベルを若干超えたものを一定の管理のもとで再利用する場合にあっては、リサイクルとは別の用語を使用してはどうかとの指摘があった。
- サ. 委員から、避難区域等についても、まずは検討のためのデータを集積することが必要との指摘があった。

(4) その他

- ア. 次回は6月19日に開催することが了解された。
- イ. 南川事務次官から挨拶

配布資料

- 資料1 災害廃棄物安全評価検討会 出席者名簿
- 資料2 第1回検討会議事要旨
- 資料3 災害廃棄物の処理を再開する福島県の市町村について
- 資料4-1 災害廃棄物の放射能汚染状況の調査概要
- 資料4-2 放射能濃度測定結果に対する考察(案)
- 資料5 災害廃棄物処理の進捗状況(福島県)
- 資料6 放射性物質により汚染されたおそれのある災害廃棄物の処理方法の検討(案)
- 資料7 処理方法に関する検討課題について
- 資料8 飛散した放射性物質の影響評価に使用する主なシナリオ及びパラメータについて(案)
- 資料9 放射能を帯びた災害廃棄物の処理に関する検討(大迫委員)
- 資料10 福島県内の市町村・組合焼却施設の処理量・焼却灰量等及び施設装備
- 資料11 東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故の影響を受けた廃棄物の処理処分等に関する安全確保の当面の考え方について
- 参考資料1 福島県内の仮置き場における災害廃棄物の放射線モニタリング調査の公表について
- 参考資料2 福島県内の仮置き場における災害廃棄物の放射性物質濃度の測定結果について